

アンケート結果についての考察と課題

(学校経営・安全教育)

(1) 児童アンケートの考察と課題

- ・「学校へ行くのが楽しい」(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年93%, 3年86%, 4年86%, 5年89%, 6年79%。学年が上がるにつれて、「とても楽しい」がやや減少傾向にある。
- ・「自分には好きなところやいいところがある」(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年94%, 3年81%, 4年82%, 5年90%, 6年74%。設問1と同様に学年が上がるにつれて回答1, 2の合計が減少している。
- ・児童一人一人が自己肯定感を実感する場を授業や生活の中で増やしていく必要がある。また, 児童一人一人の良いところを見る意識を教師が持ち, 児童の良いところを児童自身にしっかりと伝えていくことが必要である。

(2) 保護者アンケートの考察と課題

- ・「学校は, 子どもにとって楽しい場となっている」
どの学年も回答1, 2を合わせて90%を超えている。児童アンケートより良い結果が出ている。今後は「当てはまらない」と答えている家庭との連携をしっかりと図っていかねばいけない。
- ・「学校は, 不審者対策, 避難訓練など安全教育に力を入れている」
どの学年も回答1, 2を合わせて95%を超えている。学校で実践している防災教育や避難訓練の実施が理解されていると考えられる。
- ・「施設・設備などの教育環境が安全で有効に整えられている」
どの学年も回答1, 2を合わせて約85%以上が当てはまるとの回答を得ているが, 記述回答の中に, 体育館・校舎の老朽化及び改修, トイレの臭い・改修, エアコンの設置等に関する意見を多くいただいた。今後も施設設備については, できる修繕を重ねながら徳島市教育委員会に要望をあげていく。
- ・「学校は, 家庭との連絡を密にし, 連携を深めようとしている」
回答1, 2を合わせて約85%以上が当てはまるとの回答を得ているが, 記述回答の中には連携の不十分さを訴える回答もあった。「当てはまらない」と感じる家庭をなくしていくため, 家庭との連絡の徹底と連携を進めていかなければと考える。
- ・「学校は子どものよさや可能性を伸ばしている」
どの学年も約85%以上当てはまるとの回答を得ているが, 当てはまらないという回答を減らしていくため, 児童それぞれの自己肯定感を児童自身に実感させる場面を多くしていく必要があると考える。
- ・「学校は, 保護者・地域と協力して教育活動をしている」
どの学年も回答1, 2を合わせて90%を超える回答を得ている。昨年度より割合は少しではあるが高くなっている。当てはまらないという回答もより

減らしていくためにも今後も、地域での体験活動を増やしていくなど、さらなる連携を図っていく必要があると考える。

(学力向上・体力向上)

(1) 児童アンケートの考察と課題

・「授業で学習したことがよくわかる。」

(回答1, 2を合わせて) 1年91%, 2年99%, 3年87%, 4年92%, 5年93%, 6年84%。

学年によって「当てはまらない」と回答した割合にばらつきがある。また、昨年度と比較しても、「当てはまらない」の割合が少しではあるが増加している。指導方法の工夫・改善を常に考えていかなければいけない。また、個々の学習の状況を把握し、授業に役立てていく必要がある。

・「授業中、先生や友達の話をしっかり聞いている。」

(回答1, 2を合わせて) どの学年も、約90%をこえている。授業に落ち着いて取り組めているといえる。

・「体育の授業が楽しい。」

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年99%, 3年97%, 4年97%, 5年97%, 6年95%。どの学年でも、高い割合を得るができた。しかし、体力テストでは満足のいく結果には至っていない。体力テストも念頭に置いた授業づくりや、自ら運動に親しむようになる授業づくりをめざしたい。

・「授業中、自分の意見を考えたり、発表したりしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年93%, 2年88%, 3年79%, 4年78%, 5年68%, 6年72%。学年が上がるにつれて、減少傾向である。また、昨年度の結果よりも、「当てはまらない」の割合は多くなっている。今後、授業改善により、自分の意見を発表する場面が多い授業等の実践が必要である。

・「朝ごはんを食べて登校している。」

(回答1, 2を合わせて) 1年100%, 2年95%, 3年97%, 4年95%, 5年99%, 6年98%。

朝ごはんを食べてくる児童が、どの学年も100%になるように引き続き家庭に呼びかけ、連携を図っていかねばいけない。

・「給食の時、苦手なものでも残さず食べるようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年87%, 2年88%, 3年83%, 4年90%, 5年95%, 6年89%。

学年によって少し回答1, 2の割合に差がある。日々の給食指導で、自分で食べられる量を調節できるようにさせる必要がある。。

・「休み時間(用事のないとき)には、外で元気に遊ぶようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年89%, 2年82%, 3年85%, 4年85%,

5年61%，6年66%。高学年になると「当てはまらない」と回答した割合が多くなっている。委員会等の仕事が多くなるということはあるが、長なわ大会など子どもが喜んで取り組みそうなものを実施して外での遊びを促すことが必要である。

・「朝の読書や読み聞かせの時間を楽しみにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年98%，2年94%，3年85%，4年77%，5年71%，6年53%。

低学年は、年間を通して読み聞かせ活動をボランティアグループ「ピノキオ」の方々がしてくれていることが、本への関心を高めていると考えられる。学年が上がるにつれて読書に対する意欲が減少傾向にある。朝の読書の時間を本の楽しさを知らせる時間にしたい。また、図書室や学級文庫の整備や本を読みやすい場所、選びやすい場所に置くなどの読書環境の整備をする。さらに、国語科での並行読書を推進する。

(2) 保護者アンケートの考察と課題

・「子どもは基礎的・基本的な学習内容を理解できている。」

(回答1, 2を合わせて) どの学年も約90%の回答を得ている。今後、「当てはまらない」という回答を減らしていくため、個に応じた指導をより進めていきたい。

・「子どもは先生の話がしっかり聞けている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年95%，2年92%，3年90%，4年93%，5年92%，6年87%。

児童アンケートとほぼ同様の結果が得られている。記述回答には、「授業中うるさい」という意見もあったが、大半の保護者は落ち着きのある授業態度が身につけているととらえている。

・「子どもは読書が好きである。」

(回答1, 2を合わせて) 1年77%，2年77%，3年67%，4年67%，5年71%，6年66%。

記述回答でも読書に関する記述が多かった。家庭での読書を促すためにも図書室で本を借りやすい環境作りや、家庭での読書時間を確保するなど家庭との連携が必要である。

・「学校は、子どもの体力づくりに力を入れている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年99%，2年89%，3年95%，4年94%，5年97%，6年97%。

今後も、学校での体力づくりへの取り組みを広く知らせていく。

・「子どもは、苦手な食べ物でもがんばって食べるようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年93%，2年93%，3年92%，4年90%，5年93%，6年92%。どの学年も90%をこえているが、記述回答には、

家庭での好き嫌いについての記述が多かった。体力づくりと同様、学校の食育への取り組みを広報していく。

(人権・道徳教育)

(1) 児童アンケートの考察と課題

・「自分から進んで元気なあいさつができています」

(回答1, 2を合わせて) 1年88%, 2年81%, 3年77%, 4年71%, 5年80%, 6年70%。

どの学年も、他の設問より回答1, 2の割合が少ない。より積極的にあいさつのできる児童の育成を目指していきたい。児童会だけでなく、学級・学年等からのあいさつ運動に取り組んでいきたい。

・「友達の名前を呼び捨てにしたり、乱暴な言葉づかいをしったりしないようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年94%, 3年91%, 4年79%, 5年77%, 6年84%。高学年になると、「よく当てはまる」の回答が少なくなる。学習中はできているが、普段の生活では十分とはいえない。学級の雰囲気がやさしくなれば子どもの言動もやさしくなっていく。学級づくりが大切になってくる。

・「そうじや係の仕事をするときは、みんなと協力できている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年95%, 2年97%, 3年92%, 4年93%, 5年99%, 6年94%。どの学年でも90%をこえている。だれとでも協力して仕事ができるよう、今後も指導を続けていく。

・「学習したことを生かして、友達にやさしくしたり、困っている友だちを助けていたりしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年98%, 2年91%, 3年93%, 4年87%, 5年93%, 6年85%。

今後も良いところを紹介し合うなどしてやさしい雰囲気作りをする。

・「クローバー集会やクローバー遠足などのクローバー班活動で同じ班の人と仲良くなれた。」

(回答1, 2を合わせて) 1年95%, 2年95%, 3年91%, 4年96%, 5年95%, 6年91%。

本校の伝統となっているため、経験の積み重ねがある。実施後の感想も異学年の関わりについて多くの子どもが書いていた。今後も本校の特色の一つとして続けていきたい。

(2) 保護者アンケートの考察と課題

・「子どもは、自分から元気よく挨拶ができています。」

(回答1, 2を合わせて) 1年78%, 2年85%, 3年83%, 4年88%, 5年90%, 6年91%。記述回答では、立哨指導や校内を訪れたときのあいさつが少ないという記述が多かった。校内でのあいさつ指導を進めていくと共に、家庭へも挨拶の大切さを呼びかけていく。

・「クローバー班活動子どもたちの絆を深めるのに役立っている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年93%, 2年97%, 3年95%, 4年94%, 5年95%, 6年94%。

本校の伝統であり、保護者の中にも体験された方がいて、多くの支持を得ている。しかし、デメリットを感じている保護者の意見もあった。クローバー班活動の内容や良さをもっと知ってもらうようにする必要がある。

(生徒指導・特別支援教育)

(1) 児童アンケートの考察と課題

・「先生は、自分ががんばったことをほめてくれる。」

(回答1, 2を合わせて) 1年96%, 2年91%, 3年84%, 4年78%, 5年94%, 6年76%。学年によって少し差がある結果が出ている。今後機会を見つけてほめることによって、児童の自己肯定感を高めていく必要がある。

・「先生は、悪いことをしたとききちんとしかってくれる。」

(回答1, 2を合わせて) 1年87%, 2年96%, 3年84%, 4年95%, 5年99%, 6年96%。

子どもたちはほめられる事に関する設問よりも、しかられる事に関する設問の方が「よく当てはまる」の回答の割合が多い。機会を逃さずしかることとほめることを両輪にして指導にあたりたい。

・「先生には、何でも質問したり、相談したりできる。」

(回答1, 2を合わせて) 1年88%, 2年81%, 3年77%, 4年71%, 5年80%, 6年70%。

児童とのコミュニケーションの確立と校内の相談体制の充実を図らなければいけない。コーディネーターの活用について、啓発していく。

・「学校のきまりを守って生活している。」

(回答1, 2を合わせて) 1年100%, 2年97%, 3年91%, 4年94%, 5年99%, 6年94%。

回答1, 2を合わせると90%以上の回答を得ているが、「よく当てはまる」の割合は高いとはいえない。自分の行動を振り返る自己評価の場を設けることが必要である。

・「交通ルールを守り、安全に気をつけて決められた道を登下校している。」

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年99%, 3年98%, 4年98%, 5年99%, 6年96%。

決められた通学路で登下校する指導を今後も続けていく。

(2) 保護者アンケートの考察と課題

・「学校は、正しいきまりを教え、子どもの間違った行動を適切に指導している。」

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年97%, 3年89%, 4年96%, 5年95%, 6年97%。

今後も保護者との連携を密にとりながら生徒指導に取り組んでいく。

・**「学校は、いじめや不登校・非行のない学校づくりに取り組んでいる。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年98%, 2年97%, 3年96%, 4年93%, 5年93%, 6年92%。小数ではあるが、「当てはまらない」と回答している保護者に対して、学校や担任の取り組みを理解してもらえよう働きかける必要がある。

・**「子どもは、交通ルールを守り安全に気をつけて決められた道を登下校している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年97%, 3年97%, 4年97%, 5年97%, 6年97%。

ほぼ、児童のアンケート結果と同様であった。

・**「学校は、けがや病気だけでなく、心のケアの面でも配慮している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年91%, 2年91%, 3年89%, 4年84%, 5年96%, 6年87%。

今後も保護者との連携を密にとり、学校の教育活動に理解と協力を求めていく中で、保護者からの信頼感を高めていく必要がある。

・**「学校は、特別な配慮の必要な子どもへの取り組みができています。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年94%, 3年95%, 4年95%, 5年96%, 6年93%。

教職員にはよく理解されているが、保護者にも、「よく当てはまる」の割合を増やしていきたい。学校の取り組みを多く広報していく必要がある。

学校関係者評価結果

- 1 日 時 平成27年3月12日(木) 11:00~13:00
- 2 場 所 校長室
- 3 出席者 増金賢治(学校評議員) 加根敏之(学校評議員) 林千寿留(学校評議員)
濱口恒一郎(校長) 北島潤(副校長) 生越日佐(教頭)
- 4 評価内容 児童・保護者・教職員アンケート結果とそれをもとにした考察と課題を中心にして

まず、最初に本年度の川内北小学校の評価計画について説明した後、アンケート結果について考察を述べた。

学校評議員の評価

- ・今年度から全学年で実施したことには意義がある。今年度のように全体の実態を把握することで、学校全体で対応・改善することが可能になってくる。
- ・アンケート結果はおおむね良い結果といえるのではないか。
- ・9割良い結果であったとしても、残り1割の改善を忘れずにめざしてほしい。たとえば「朝ごはんを食べて登校している」では、「当てはまらない」と回答した1~

- 2人を見逃さないように、家庭との連携を図ってほしい。
- ・一人一人を大切にしていくこと、そして、一人一人への指導の積み重ねが学校全体をよくしていくのではないか。
 - ・クローバー班活動では、異学年の交流の中で、先輩を尊敬し、後輩をいたわる気持ちが育つ。これからもずっと続けてほしい。
 - ・児童の活躍の様子は、新聞等でも見ている。よく頑張っている。

学校としての次年度の課題と今後の改善方策

- ・全国学力調査や県学力調査の結果を分析し、苦手分野の克服を図っていく。そのためには、授業時間においては、一人ひとりに応じた学習方法の指導を充実させると共に、児童の興味・関心を高めるために板書・発問等を工夫するなど授業改善に取り組んでいく。また、個人懇談、家庭との連携の中で、「家庭学習の手引き」を活用し保護者へ理解や協力を呼びかけていく。
- ・施設面の老朽化等については、教育委員会と協議しながら連携し施設設備の改善を図っていく。
- ・学校の教育活動について、手紙の配付やホームページへの掲載を通じて広く知らせていく。
- ・業間や昼休み、学活の時間等を活用し、クローバー班で活動する行事や集会を実施するなどして、班の絆を深め、楽しい学校づくりにつなげていく。
- ・あいさつ運動を、児童会だけでなく、学級・学年からも取り組んでいく。
- ・国語学集での並行読書や、各教室の読書環境を改善することによって読書好きの児童を増やしていく。
- ・いろいろな場面を想定した実効性のある避難訓練等を実施する。